

「湘南とドイツ」原稿募集

先の理事会で湘南にまつわるドイツ事情を取り上げてみたらどうか…という提案がありました。会報担当では、これから会員諸氏のご協力を得て、このテーマを取り上げてゆきたいと考えています。この欄に就筆して頂ける方、情報を提供して下さる方は事務局会報担当までご連絡下さい。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

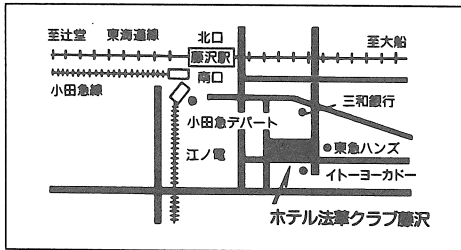
6月の会員懇話会！

湘南日独協会では隔月で会員懇話会を開催しております。会員は勿論、会員外の方もご参加いただけます。あなたも是非ご参加下さい。

日時 6月22日(土) 午後6時～8時

会場 ホテル法華クラブ藤沢店2F
レストラン「ヴェルデ」ローズルーム

費用 各自自弁です。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今年もドイツフェアがやってくる！

恒例となった夏のビアイベント「ドイツフェア」が間もなく今年もやって来ます。詳細は追ってご紹介致しますが、日程は下記の通りですから、どうぞ今から手帳に記入してご予約下さい。

今年のドイツフェア **7月28日(日)**

18:00 開場 18:30 開宴

湘南日独協会 2001-2 年度活動予定

■ 6月22日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 7月28日(日) 第22回例会 「ドイツフェア」

■ 6月22日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 7月28日(日) 第22回例会

湘南名物「ドイツフェア」

日時 7月28日(日)午後6時開場 6時30分開宴

会場 湘南ホテル

出演 楽団シュバルベ、湘南男声合唱団、

藤沢フォークダンスクラブ

■ 8月24日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 9月21日(土) 第23回例会 講演会

演題 (仮題) 最近のドイツ鉄道事情

講師 山田徹雄氏

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

■ 10月26日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 11月23日(土) 第24回例会 講演会

演題 (未定)

講師 真野直司氏

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 4. NO. 3. 通巻21. 発行 2002. 5. 25.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9 中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第21回例会

「デュッセルドルフの

思い出を歌に託して」

…デュッセルドルフ男声合唱団の

トークコンサート…

ご存知のようにドイツのデュッセルドルフは一時8,000人の日本人ビジネスマンが駐在し、現地日本人学校には1,400人の子供が通うというヨーロッパにおける大きな日本人の町を形成していました。その時の各社の駐在員の方々が日本に帰ってから親交を続けて「デュッセルドルフ男声合唱団」という名前で活動しています。今回はその合唱団の皆さんに町の歴史と現況を話していただき、併せて合唱も披露していただきます。終了後はミニパーティーで交流します。

日時 2002年5月25日(土) 午後

会場 ニュー向洋

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★



湘南日独協会 第20回例会

「フカン・ミリン —田代純子 デュオコンサート」

会員 能登 崇

3月例会の会場へ足を踏み入れてびっくり仰天！約200名収容のリラホールが超満員で、補助椅子が運び込まれるほどの大盛況。当協会の例会でこれだけの入場者は記憶が無い。講演会や体験発表などの例会プログラムが多い中で、今回の例会は、フルート、ピアノそしてバレエと内容が豊富であったことも、会員以外の方を多数集客出来た理由であろう。さらに出演者の技量と音楽が十分我々を楽しませてくれた。

今回のデュオコンサートは、ミュンヘン音大から東京芸大大学院に学ぶフルートのフカン・ミリン氏と、北鎌倉女子高校から東京芸大を経てベルリン芸大で学んだピアノの田代純子氏の共演であった。そして特別賛助出演は、乃羽バレエ学校からドレスデン国立歌劇場バレエに入団した寺島まゆみ・ひろみ姉妹という、まさに日独協会ならではの出演メンバーであった。あたかも国内でヨーロッパの演奏会を聴いているかの様で、当日聞き逃した方は是非次回にはどうぞお見逃しなくご出席いただきたい。

特別出演の寺島姉妹は、さすがに欧州各国で舞台やコンクールに出演し、厳しい練習をもこなしているせいか、踊る姿が優雅で美しいことは勿論のこと、観客を十分にひきつけるターンや跳躍時の豊かな表情と可愛らしい笑顔がとても印象的であった。当日の「くるみ割り人形」からの二曲も姉妹にぴったりで、芦笛のきびきびとした動きと優雅な花のワルツの対比も良かった。若いお二人がドレスデン歌劇場という名門オペラ座に、ソロダンサーとして揃って入団出来たその



V. ミリンと田代純子の演奏

研鑽と努力に大きな拍手を送ると共に、今後の益々の成長とご活躍を期待するものである。

ミリン・田代両氏によるデュオは今回が初共演にしては、さすがにレベルが高く息も良く合い、フルートとピアノがお互いを引き立てていた様に思う。特に「春の海」は、二つの楽器が一緒になったり離れたたり、時には相手をリードしたり、その掛け合いが素晴らしかった。久しぶりでこの曲を聴いて、中学校の音楽観賞で聞いた宮城道雄の琴とヴァイオリン（確かシュメーの演奏）による絶妙な二重奏を思い出したが、正に日本が生んだ世界の名曲と言えるであろう。

フルートのミリン氏は現代ドイツを代表するフルート奏者として活躍中とあるが、その技術的な高さは素人の我々にも十分伝わってきた。特にバッハの「パルティータ」一曲目アルマンドのアレグロにおいては、どこでプレスを入れているのか分らない程、終曲のアンダレーズの運びも見事で、思わず聞き惚れてしまった。単にテクニックだけではなく、豊かな表現力を聴かせてくれたのが、同三曲目のサラバンドで、情感溢れる深みのある響きを十二分に堪能できた。当日会場に見えていた同氏のミュンヘン時代の恩師マイゼン先生も、「輝くような響きをもった音色で訴えかける豊かな表現力の持主」と評価されているが、当日の聴衆



寺島まゆみ・ひろみ姉妹のバレエダンス

もその通りのフルートを楽しめたのではないだろうか。

一方ピアノの田代氏も、ドイツ、フランス、イタリアなどヨーロッパを中心に数々のリサイタル活動で活躍されて帰国、現在は聖徳大学で後輩の指導にあたりられている。当日は「アラベスク」、「3つのロマンス」と、いずれもシューマンのピアノ曲が演奏された。後者はフルートで演奏されているレコードもあった様に思うが、最初の「アラベスク」は、以前ルービンシュタインの演奏した盤で何度か聞いていた。ショパンのような華麗さも派手さもないが、シューマンの曲の中でもどこか一味違った柔らかでチャーミングな作品という記憶があった。今回、田代氏のピアノで久しぶりにこの曲に接して、やはり生の演奏からは、レコードでは味わえない生き生きとしたリズムや躍動感が伝わって来るのを感じた。氏のピアノの音はリラホールが狭いのではないかとと思われるほど良く響いてくるので、何かスケールの大きな豊かな「アラベスク」を楽しむことが出来た気がする。なお田代氏の演奏には、藤沢北ロータリークラブの方々からご後援をいただき、充実した例会となったことに対し、会員の一人として厚くお礼を申し上げたい。

(2002年4月)